科目ナンバリング	U-LAS07 10007 LJ31						
授業科目名 <英訳>	現代日本の社会問題 Social Issues in Contemporary Japan			担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 迫田　さやか		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	日本理解			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	木3	配当学年	1回生	対象学生	留学生

[授業の概要・目的]

現代日本の社会問題について、人口構造・ジェンダー・雇用・不平等に焦点を当てて、その歴史的変遷と現状を把握する。家族・市場・政府の機能がどの様に失われ、現代社会にいかなる歪みをもたらしているかを考える。

[到達目標]

1. 現代日本の社会問題を、統計資料や公文書等を経済学・社会学の手法を用いて分析し、理解する。

2. 現代日本の社会問題を諸外国の社会問題と比較することで、現代日本社会の特徴を理解する。

[授業計画と内容]

基本的に以下の順序で講義を進める。ただし講義の進み具合に応じて、講義の順番や回数を変更することがある。

第1回　イントロダクション・ガイダンス

人口問題
第2回　人口ピラミッドとその変遷
第3回　少子高齢化社会の制度設計
第4回　家族の機能と法律・社会保障制度
第5回　晩婚化・未婚化

ジェンダー論
第6回　産業構造の変化と家族（1）
第7回　産業構造の変化と家族（2）
第8回　離婚・再婚・不倫

格差社会
第9回　日本の経済格差（1）
第10回　日本の経済格差（2）

労働問題
第11回　日本の労働形態（1）
第12回　日本の労働形態（2）

若年層の社会参加
第13回　貧困
第14回　社会的排除（ひきこもり）
フィードバック

現代日本の社会問題(2)へ続く↓↓↓

現代日本の社会問題(2)

[履修要件]

日本語・日本文化研修留学生専用科目として開講する。

[成績評価の方法・観点]

授業やディスカッションへの参加度（30%）および期末レポート（70%）

[教科書]

毎回スライドをLMSで配布する。

[参考書等]

（参考書）
橘木俊詔『日本の経済格差―所得と資産から考える』（MIT press）ISBN:978-4004305903
橘木俊詔・迫田さやか『夫婦格差社会』（中央公論新社）ISBN:978-4121022004
小熊英二『日本社会のしくみ　雇用・教育・福祉の歴史社会学』（講談社）ISBN:978-4065154298

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献をもとに予習・復習してください。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]